



核戦争を防止する 石川医師の会会報

第 84 号

2014.5.26

核戦争を防止する

石川医師の会

TEL 076-222-5373

FAX 076-231-5156

核戦争を防止する石川医師の会 第 27 回総会記念企画

Nuclear Abolition Day (第 5 回核兵器廃絶国際行動日) ～ビキニ被災から 60 年。核被害の実相を知り、語り継ぐ～

来月 15 日、石川県女性センターで開催！

会員の皆様のご参加をお待ちしています

地球上のすべての命を守り、こどもたちに豊かな地球を引き継ぐために、核兵器禁止条約の制定に向けて行動する日=Nuclear Abolition Day (核兵器廃絶国際行動日) は、2010 年 6 月、ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン) が行うグローバルキャンペーンの一環で始まりました。石川県では、核戦争を防止する石川医師の会がこの動きに賛同し、2010 年から毎年、総会記念企画として開催しています。

第 5 回目となる今回は、今から 60 年前に起きたビキニ水爆実験の被災をテーマに取り上げます。

1954 年 3 月 1 日、第五福竜丸は太平洋ビキニ環礁近くでマグロ漁をしていました。午前 6 時 45 分、「太陽が西から上ってきた」。そう錯覚するほどの強烈な光と轟音、その後降りかかってきた正体不明の白い粉。それは広島型原爆の千倍もの爆発威力をもつアメリカの水素爆弾「ブラボー」の爆発でできた死の灰でした。

米国はその年の 5 月までに、「キャッスル作戦」と称して、ビキニ環礁とエニウェトク環礁で「ブラボー」を含む合計 6 回の水爆実験を行いました。そして、その被害を受けた延べ 1000 隻もの船に放射能が検出され、乗船した多く船員が放射線障害と思われる病気で亡くなっています。しかし、第五福竜丸以外の被ばく＝もう一つのビキニ事件は、人々の記憶や歴史からもなぜか消し去られ

第 27 回石川医師の会総会記念企画
Nuclear Abolition Day
第 5 回 核兵器廃絶 国際行動日

◆第 1 部 よまぎのり「映画」～放射線を浴びた「X年後」 上映会
◆第 2 部 講演会 第五福竜丸は航海中 徳川重五郎重丸重三郎の船中

あの日、日本列島は「死の灰」で覆われていた！
放射線を浴びた
X年後
この映画は、核兵器の実相を知り、語り継ぐ
ビキニ水爆実験による被災から 60 年。核兵器の実相を知り、語り継ぐ

2014 年 6 月 15 日(日) 13:30~16:30(午後)
石川県女性センター ホール (金沢市三浦町 1-44)
大人:1,000 円 / 高校生以下: 無料
※お一人様 1 枚限りです。お申し込みは、お申し込みの日の前日までです。

主催:お慶自せ丸/核戦争を防止する石川医師の会 (顧問:石川医師の会)
〒920-0902 金沢市南橋本 2-7-25 2 号 5 階 石川県立ビル 5 階 (石川県警察本部内)
電話: 076-222-5373 FAX: 076-231-5156 Eメール: info@ippnw.or.jp

当日精算券と案内
チラシを同封しました

ていきました。

今回、第 1 部で上映する映画「～放射線を浴びた～X 年後」は、南海放送 (愛媛県松山市) が約 8 年にわたる取材を通してもう一つのビキニ事件の真実に迫った衝撃のドキュメンタリーです。第 2 部では、東京都立第五福竜丸展示館学芸員の市田真理さんに、核実験場となったマーシャル諸島の人々はいま、第五福竜丸以外の被災について

日米の資料をもとにお話しいただきます。

第五福竜丸元乗組員の**大石又七**さんは、次のように語っています。「なぜ 60 年も経って皆さんの前でお話ししなければならないのか。それは、内容が現代につながっているからです。私たちは 1 人ずつ死んでいく。被害を受けたものはその真実をきちっとお話ししなければまるで犬死ですからね。悔しくてなりません」(朝日新聞デジタル、2014 年 2 月 25 日) ※大石又七さんから 6/15 の Nuclear Abolition Day に対しメッセージと資料が届きました。会報に同封したのでぜひお読みください。

東電福島原発事故発生の元凶とも言える日本の原子力開発はビキニ事件から始まった点、被害

発生の理不尽さ、情報の隠蔽、責任放棄、被害の過小評価と賠償・保障問題、差別と偏見、分断と分裂を生む構図、続く苦しみと怒り。ビキニ事件は、まるで福島原発事故を写す鏡のようなものです。今回の企画を通して、改めて、ビキニ事件の真相と核被害の実相を知り、東電福島原発事故を経験した私たちは今何をすべきかを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

会員の皆さんには、当日精算券と案内チラシを同封しました。当日、受付では「当日券」(前売り券と同額)も販売しています。ご家族やご友人と一緒に是非ご参加ください。お待ちしております！

(石川反核医師の会事務局)

◆核戦争を防止する石川医師の会 第 27 回総会記念企画

第 5 回 Nuclear Abolition Day (核兵器廃絶国際行動デー)

と き 2014 年 6 月 15 日(日) 13 時半～16 時半

ところ 石川県女性センター・ホール

内 容 第 1 部 ドキュメンタリー映画「～放射線を浴びた～X 年後」上映会

第 2 部 講演会「第五福竜丸は航海中」

講師 市田真理さん(都立第五福竜丸展示館学芸員)

チケット 大人 1,000 円、高校生以下、無料。

(剰余金の一部は当会が行っている『はだしのゲン』寄贈運動の資金として活用させていただきます)

主 催 核戦争を防止する石川医師の会

後 援 石川県原爆被災者友の会、石川県生活協同組合連合会、石川県保険医協会、石川県民主医療機関連合会、九条の会石川医療者の会、生活協同組合コープいしかわ、野々市市教育委員会、NPO 法人「はだしのゲン」をひろめる会、非核の政府を求める石川の会

第五福竜丸元乗組員
大石又七さんから届いた
メッセージと資料を会報に
同封しました。お読みください。

◆核戦争を防止する石川医師の会第 27 回総会、白衣の街頭キャンペーンのご案内

6 月 15 日(日) 11 時から、金沢駅前にて「白衣の街頭キャンペーン」を、12 時から石川県女性センター・研修室 1 にて、「核戦争を防止する石川医師の会 第 27 回総会」を開催します。

ご案内と出欠票を同封しましたので、FAX で出欠のお返事をお寄せください。

	日程	場所
白衣の街頭キャンペーン	6 月 15 日(日) 11 時～11 時 30 分	金沢駅鼓門の下
核戦争を防止する石川医師の会 第 27 回総会	同日 12 時～12 時 40 分	石川県女性センター 研修室 1

総会終了後、「～放射線を浴びた～X 年後」上映会、講演会 の開催となります。

第24回「反核医師のつどい」に212人が参加

メインテーマ「核兵器と原発ダメだべさ、みんなでやればできるっしょ」

第24回「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」が昨年9月21日～22日に札幌市のアスティホールと全日空ホテルで開催された。医師・歯科医師91人、医学生28人をはじめ、全国27都道府県から212人が参加した。

◆記念講演：村田光平元スイス大使

「世界に学ぶ脱原発—地球の未来のために」

記念講演は、村田光平元スイス大使が「世界に学ぶ脱原発—地球の未来のために」と題して行った。村田氏は講演冒頭、「福島原発事故は地球規模の汚染をもたらし、全く収束できていないことを明らかにした。政府・東電は信用できない。正義感・責任感・倫理感が欠如している」と述べた。そして、福島事故は地球の最大の危機、原発の安全保障問題は文明の危機として理解すべきで、国際的に取り組む必要があるとし、処理不能の放射性廃棄物を考慮すると原発はゼロにすべきであると強調した。氏は個人的に安倍首相やオバマ大統領などに書簡を送り続けておられるということだった。

◆教育講演：黒沢満 大阪女学院大学教授

「核兵器廃絶への道すじ」

続いて行われた教育講演では、NPT(核拡散防止条約)再検討会議で外務省顧問も務めた黒沢満大阪女学院大学教授が、核兵器のない世界をめざした動きについて、米国、国際社会、NGOの面から整理して述べた。さらに、核兵器禁止条約制定への動きについて、IPPNW(核戦争防止国際医師会議)などによる2007年の提案以来、国連やNGOなどで深められ、現在では賛成146か国、中立・日本を含めた22か国、反対26か国となっていることを報告した。

また、1996年国際司法裁判所の「核兵器の

代表世話人 白崎 良明

使用による人道的影響を懸念し、国際人道法を遵守する必要性を確認した流れで、国際赤十字・赤新月運動が「核兵器廃絶に向かって進む」決議を行い、2015年NPT再検討会議に向けて核兵器の非正当化と核軍縮の「段階的アプローチ」から「包括的または段階的・包括的アプローチ」へ進む展望が述べられた。



(黒沢満 大阪女学院大学教授)

◆分科会

分科会は、浅井基文氏(外交官から東大教授などを歴任、広島平和研究所元所長)の「日米安保と憲法問題—東アジア視点で」に参加した。改憲論者の基本的考え方は、過去に対する反省が欠如し、戦前政治を受け継ぐ思想である。自民党の「日本国憲法改正草案」は国民主権および人権の形骸化、集団的自衛権の行使、アメリカの世界戦力への呼応:日米軍事同盟のNATO化を狙ったものである。改憲論における東アジアの位置づけは、アメリカの世界的軍事行動および日米軍事同盟の変質強化を正当化するために必要とされてきた「脅威」の存在(中国・北朝鮮脅威論など、無ければ人為的に作り出す)として利用している、などと解説された。

もう一つの分科会は「黒い雨」「福島事故後の被ばく状況」「内部被ばくについて」の小講演と指定発言「原発労働者の健康被害の問題」

が行われた。

つどいの詳細は報告集としてまとめられる。核戦争に反対する医師の会（PANW）会員には無料で配布されるのでこの機会に入会をおす

すめする。

※ PANW への入会を希望される方は、石川反核医師の会までご連絡ください。
電話 076-222-5373

2014年の反核医師のつどいは福岡市で開催されます。

2015年春、ニューヨークで開催されるNPT（核拡散防止条約）再検討会議に向けて、反核医師の会としてどのような取り組みができるのか、全国の会員と交流する貴重な機会です。参加を希望の方はぜひ事務局までご連絡ください。

メインテーマ：核はいつちゃん(全<)好かん！
～作るばい(作るよ)安全な未来、核亡き世界～

日時：2014年11月1日(土)13時～2日(日)13時

場所：都久志会館(福岡市中央区天神)

内容：韓国から、反原発運動の講演をいただく予定

※詳細は次号以降でご案内します。

韓国と日本 両国の反核医師 の会 交流の旅

参加レポート 第2弾

韓国では、福島原発事故後に「韓国反核医師の会」(DAN)が結成されました。全国反核医師の会(PANW)は2013年7月、DANとの交流とウォルソン(月城)原発視察をメインとした日韓の反核医師の会の交流の旅を企画し、石川からは世話人の横山隆先生と会員の横山加奈子先生が参加しました。横山隆先生から、参加レポート(第2弾)が届きましたのでご紹介します。第1弾は83号(2013年12月発行)をご参照ください。

日・韓の反核医師の会によるセミナー 「福島原発事故と日本国民の健康への影響」に参加

羽咋診療所 横山 隆

第2日目(7月14日)午前中は、古都慶州の観光で仏国寺、古墳公園などを見た。午後、Korea Railが誇る新幹線KTXでソウルに移動。ソウル大学へ行き、韓国反核医師会(DAN)との交流を行った。

ソウル大学で行われた「核戦争に反対する医

師の会」(PANW)とDANによる「福島原発事故と日本国民の健康への影響」と題したセミナーには、PANWからの参加者26人に加えて、韓国側から30人余りが参加し、約3時間に渡って報告と意見交換を行った。



(ソウル国立大学で行われたセミナーの様子)

まず、DANの共同代表であるキム・チョンボム医師の挨拶の後、原和人PANW共同代表が挨拶とPANWの紹介を行った。その後、「福島原発事故に伴う健康障害」というテーマで青木克明医師が講演し、韓国側から、チュ・ヨンス医師が「韓国の原子力発電所による健康障害」について、カン・ヘジョンさんが「3.11以降の日本の住民被爆環境」について講演し、その後、意見交換を行った。

青木医師は、福島の小児の甲状腺超音波検診の結果について報告し、福島での被爆線量は圧倒的に低い、放射線誘発甲状腺がんの潜伏期間は最短で4~5年後であるが、福島はまだ2年。被ばく時年齢が若いほどリスクが高いが、今回の症例の平均は15歳、手術された癌の組織診断では通常の乳頭がんであり、チェリノブイリの乳頭がん亜型ではなく、また多発でもない。以上の理由から、高度の検診を行ったことによって、今まで成人に認められていた甲状腺がんが、小さいうちに発見された可能性が高いと説明。今年度、一番被ばくが少ない地域の検査結果が報告される予定で、その結果を注視していきたいと述べた。この他、青木医師自身が経験

した福島からの避難者の検診や原発事故現場で働く労働者の治療などについて報告した。

チュ・ヨンス医師は、韓国政府が行った健康調査についての問題点を指摘。韓国では、国の事業として、原発労働者と住民の健康調査が行われており、チュ医師は20年にわたるその調査結果について報告した。原発労働者の健康問題

については8,000人の労働者を対象に調査されたが、癌の発生そのものは少なく、有意差は認められなかったが、染色体異常が高い傾向にあった。ただ、観察期間が短いので、今後慎重に経過をみていく必要がある。

もう一つの住民の健康調査は1992年から2006年までの期間において、原発から5キロ以内、5~30キロ圏内、異なる場所の3群に分けて調査された（なお、原発周辺のモニタリングポストの数値は低い）。調査結果は、3つの群において癌の発生に差がなかったと報告されている。しかし、データを詳細に検討してみると、女性の甲状腺がんに有意差がみられた。周辺地域が61.4であったのに対して、対象地域では26.6であった。調査機関はこの結果について、「女子の場合には差を認めたが、男子では認めなかったため、女性の甲状腺癌が有意に高かつ



(チュ・ヨンス医師(左)と青木医師)

たというのは否定的である」と述べたという。結果が隠ぺいされている可能性もある。この調査はこれで終了したことになるが、調査期間が短いこともあり、今後、追跡調査をやるべきであると考えている。

最後にカン・ヘジョンさん（「アジアの平和と歴史教育連帯」という NGO で活躍されている方で、通訳業もされる）が、「3.11 以降の日本の住民の被ばく環境」という内容で報告された。

意見交換で、私はチュ・ヨンス医師に対し、羽咋診療所で診断した甲状腺癌の症例をまとめた際に、韓国政府の健康調査結果を引用したことを述べ、女性の甲状腺癌患者数で有意差が認められたことに非常に驚き、さらに詳細な健康調査結果の検討を期待するという趣旨意見を述べた。

を述べた。

PANW と DAN のセミナーの後、ソウル市内の焼き肉レストランに移動し、交流を行った。交流会には、DAN のメンバーや若い医師、医療従事者、脱原子力運動の活動家も参加していた。

第 3 日目（7 月 15 日）は午前中、景福宮と仁寺洞を観光し、金浦空港 16：55 分発の大韓航空で無事、関西空港に着き、解散した。

（この報告は、城北病院・原和人 PANW 共同代表の報告を参照させていただきました。）



4 日目の景福宮観光、右手後方に見えるのが光化門

今年 11 月 1 日から 2 日に福岡市で開催される全国反核医師のつどいでは、韓国における反原発運動の取り組みに関する報告が企画されています。ご期待ください。

ご案内

第 21 回 IPPNW (核戦争防止国際会議) 世界大会 in カザフスタン
メインテーマ: Disarmament, Peace and Global Health in the 21st Century

日時: 8 月 27 日～29 日

場所: カザフスタン・アスタナ

内容: 本会議 1 核兵器の人的な影響

本会議 2 公衆衛生危機としての武装暴力行為

本会議 3 セミパラチンスク核実験場における核実験の生医学的、環境影響

本会議 4 核連鎖の健康への影響

本会議 5 核廃止のための政治過程: ICAN と禁止条約

本会議 6 エネルギーと創造力のマルチメディアの称賛

ワークショップ ※反核医師の会では「福島原発事故による放射能汚染と健康への影響(仮)」を提案しています。

行程: 2014 年 8 月 26 日(火)～2014 年 8 月 30 日(土)の 5 日間。

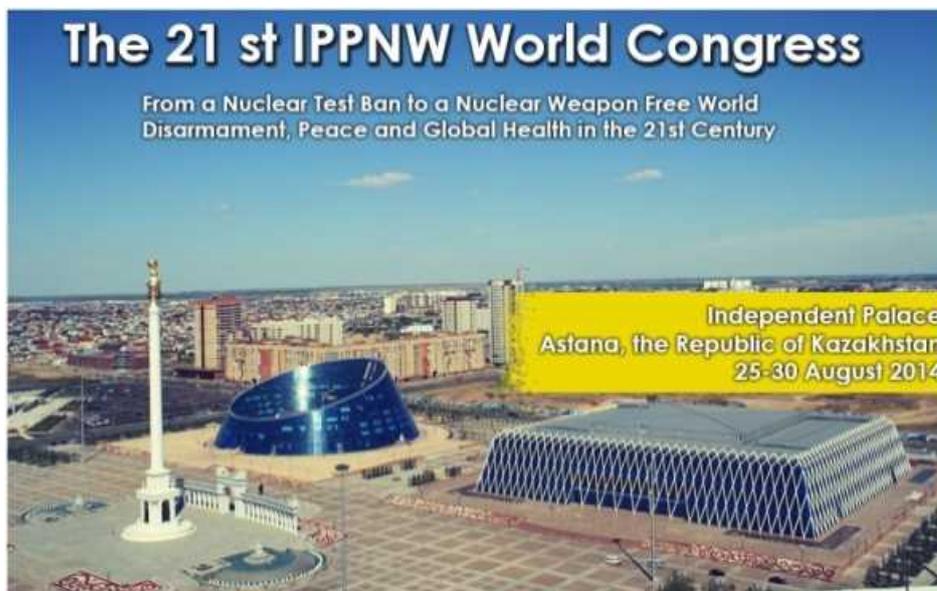
8 月 26 日(火)ソウル・インチョン空港に 16 時頃集合

ソウル→アルマトゥイ(泊)

27 日(水)アルマトゥイ→アスタナ→大会会場

29 日(金)19 時頃 アスタナ→アルマトゥイ→ソウル

30 日(土)ソウル解散 8 時



☞世界大会の企画内容の詳細については、IPPNW世界大会のホームページをご覧ください。

<http://ippnw2014.org/?lang=en>

参加希望の方は石川反核医師の会にご連絡ください(電話 076-222-5373)

医学部 1 年生に 原発を語る！ 後編

の危険性

金沢大学医薬保健学域
医学類特別講義
第 6 回 (2013 年 7 月 9 日)

～医師として多様な生き方を語る～

講師：吉田均先生

(よしだ小児科クリニック)



4. インチキな「がん発生率」

「ミスター100 ミリシーベルト」のことを知っていますか？彼は、「被害が確認されていない。ゆえに大丈夫」と言いました。しかし、正しいドクターならば、「もしかすると被害があるかもしれない。ゆえに危険かもしれないので、放射線をなるべく浴びないように」と患者さんに指導すべきですよね。これを「予防原則」と言います。

彼は広島・長崎の原爆被爆者のがん発生率のデータを基にこのように主張しています。では、彼らが基にしているデータは一体どんなものなのでしょうか。

皆さん、がんの発生率が多いかどうかは誰と

比べたらよいと思いますか？

(学生：「被爆者でない人」と答える)

正しい。そうですね。ところが、原子カマラの学者はこういうことをしたのです。

まず、爆心地から 2.5 キロメートル以内の初期被ばく＝ピカッと光ったときに放射線の外部被ばくをした人のがんの発生率を見ました。これが分子です。そして分母は、10 キロ圏内にいた人たちのがん発生率としました。

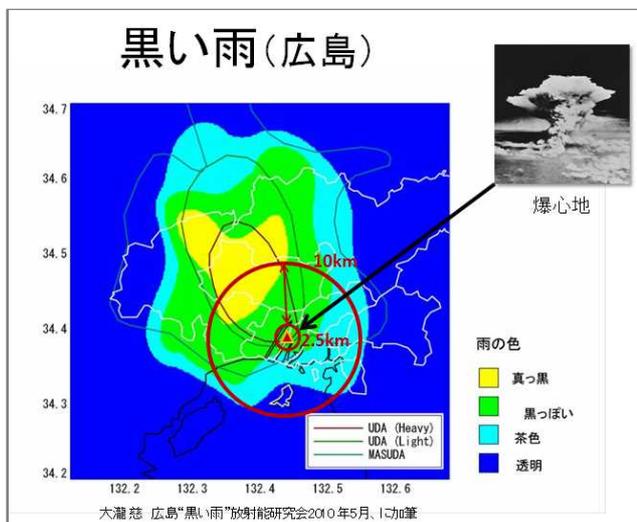
緑色や黄色の部分（薄い色の部分）は黒い雨が降ったところですので、10 キロ圏内は全員黒い雨を浴びて、被ばくしているわけです。ですから、分母とされた人々もがんになりやすいわけです。

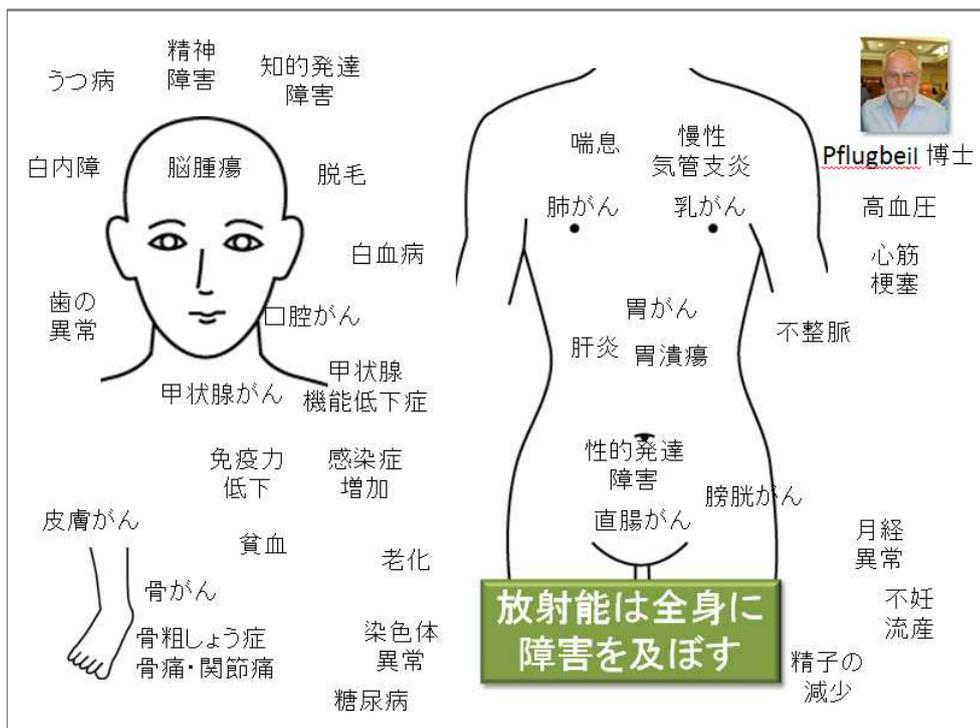


セバスチャン・プフルークバイル等、ドイツ放射線防護協会会長や核戦争防止国際医師会議ドイツ支部に属する研究者がまとめた論文集の訳本『チェルノブイリの恐ろしい健康被害 原子炉大惨事から 25 年の記録』(有償配布 1000 円)。
※ご注文は石川反核医師の会まで

つまり、被爆者と被爆者を比べて、がんの相対リスクを出したわけです。統計学の基本中の基本ができていないんです。これが、全ての国際的基準を決め、「100 ミリシーベルト以下は大丈夫」となっていくわけです。まるでインチキなデータが基になっているんです。

この『チェルノブイリの恐ろしい健康被害 原子炉大惨事から 25 年の記録』は、我々のグループ「原発の危険から子どもを守る北陸医師の会」で翻訳した本です。この本は論文のサマリー集です。ここに書かれていることをスライド 1 枚で示します。





応して蒸気が発生し、一気に約 200 気圧まで上昇します。200 気圧もあると格納容器も耐えられないため、格納容器に大きな穴が開きます。(セシウムだけで言うと) BWR 2 型の事故の場合、セシウムが 3 割ほど出ます。3 割ぐらい大丈夫じゃないかと思われるかもしれませんがそうではありません。

これは志賀原発 1

ここには書ききれないほどのあらゆるがん、そしてがん以外の病気もこんなに出るのです。つまり、放射能は全身に被害を及ぼすということなのです。

号機の図です。

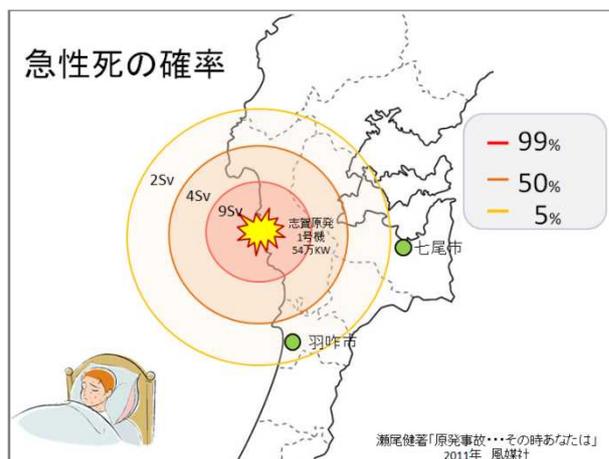
5. 破局的原発事故が起きると…

福原発事故は大変だったと言いますが、それよりも大きな事故を「破局的原発事故」と言います。

放射能をたくさん浴びると、1 か月以内、あるいは数週間で結果的に死亡してしまいます。これを「急性障害」と言います。東海村の臨界事故で放射能を浴び、急性障害になった方がいます。彼はこの事故で、10 シーベルト (100 ミリシーベルトの 100 倍) の被ばくをしました。この場合、皮膚はすべて剥がれ、再生しません。DNA がズタズタになるからです。皮膚だけではありません。内臓も全部壊れていきます。

瀬尾健さんの『原発事故—その時、あなたは！』(風媒社) をぜひ読んでください。この本には次のようなことが書かれています。

破局的原発事故が発生し、メルトスルーして核物質が下の方に落ちていくと、それが水と反

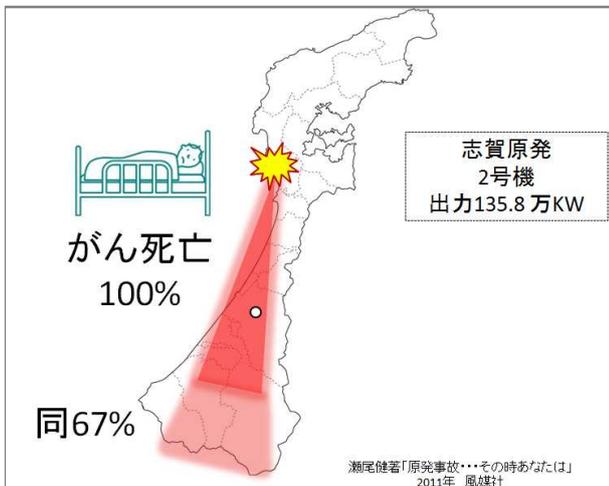


9 シーベルト以内がこれだけの範囲内になります。この場合、99%の方が死亡します。地元自治体の方は原発を早く動かしてほしいと言っていますよね。このことを知った上でそう言っているのでしょうか？そうであれば恐ろしいことです。

4 シーベルト以内は羽咋市に迫っています。この場合、50%の方が死亡します。2 シーベルトで5%。しかもこれは、残りの 95%の人は正常という意味ではないのです。これが事故の実際なのです。「ただちに影響はございません」

と誰かが言いましたが、「ただちに影響がない」とはこういう意味なのです。

このような事故が起きないとどうして言えますか？



皆さんが今いる小立野はこの丸いところです。志賀原発2号機で破局的原発事故が起きた場合、がん死亡率が100%の範囲はどこまでか？北から緩い風が吹いていくと、能美市を超えて小松までが含まれます。そして加賀市では、67%の人がいずれがんで死亡するわけです。これはがんだけの話です。がんは放射能の影響のほんの一部なのです。大部分は心臓、肺、消化器に障害が出てきます。

このような事故が起きた場合、皆さんは逃げられると思いますか？かたや日本海、かたや白山。高速道路は逃げた人で溢れ、動けなくなります。飛行機で逃げられる人はほんの一部です。

結局、皆さんは今、原発を受け入れて生活しているのです。それは、電力会社に命を預けているのと同じことです。過酷事故が起きた場合の覚悟はありますか？

皆さんは“これから”の人たちです。楽しい人生が待っています。それが台無しになるかもしれない。このような過酷事故が絶対に起きな

いとはどうして言えますか？

実際に、想定外のことが起きたわけです。そして、事故が起きる可能性は必ず存在するのです。

さて、皆さん。今日の新聞に原発の再稼働のことが載っていました。この話を聞いた後で答えにくいかと思いますが、「再稼働に賛成」の人はいますか？

(手を挙げる人、なし)。

まあ、挙げにくいとは思いますが、良かったと思います。私の話を理解していただいたと解釈したいと思います(笑)。

大平(司会)：本当かな？と思っている人もいると思いますが、本当かどうかを考えるのが科学者の第一歩。自分で検証することが大事かと思っています。

※ 2013年7月9日、石川県医師会が受け持つ金沢大学医薬保健学域医学類特別講義(第6回)において、3人の先生方が趣味や多彩な活動など、医師としての多様な生き方を語りました。当会会員で、「原発の危険から子どもを守る北陸医師の会」の世話人をされている吉田均先生も講師の一人として教壇に立ち、原発の危険性についてご自身の思いを語りました。その講義の要旨を前号と今号の2回にわたって掲載しました。

※ 講義に出席した学生は今年入学したばかりの1年生約90人。講義終了後、42人の学生が自主的に『チェルノブイリの恐ろしい健康被害 原子炉大惨事から25年の記録』を持ち帰りました。

(文責：石川反核医師の会事務局)

核兵器廃絶をめぐる国際会議の動き(メモ)

前回の会報では2013年10月に開催された軍縮と安全保障を討議する国連第1委員会、日本が初めて核兵器の「非人道性」に関する共同声明に賛同したことを報告しました。また、「核兵器禁止条約(NWC)および核兵器の「非人道性」をめぐる近年の動き」(年表)も掲載したところです。今回はその続報として、今年2月のメキシコ会議、4月のNPT I 外相会議、4月末から5月初旬にかけて開催されたNPT第3回準備委員会の動きを、報道記事等を参考にメモとしてまとめました。

◆ メキシコで、核兵器の非人道性に関する国際会議 開催

- 2014年2月13~14日、メキシコ・ヌエボバジャルタで「核兵器の非人道性に関する国際会議」が開かれ、146か国の政府やNGOの代表が集まった。日本からは外務省の代表者とともに、日本被団協の藤森俊希事務局次長らが出席。
- 被爆者と被爆3世の計5人が被爆体験や平和への思いを語った。昨年開かれたノルウェー・オスロの会議では被爆証言等の時間は数分間だけだったが、今回は会議冒頭に1時間もの証言時間が設定された。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の川崎哲共同代表は「核兵器がいかに非人道的かを知る被爆者の存在感が、議論の方向を決定づけた」と話した。
- 前回のオスロ会議では核兵器が使用されたら地球環境や人々の健康にどんな被害があるかが論点となり、核兵器保有国や日本のような「核の傘」に頼る国に出席を促す配慮だといわれた。今回のメキシコ会議では一歩進み、「非人道的な兵器ならば禁止と廃絶に向けた行動を打ち出すべきだ」という意見が相次いだ。議長を務めたメキシコの外務次官は「もう後戻りはできない」と廃絶への決意を明言し、核兵器禁止する法的枠組みなどの必要性を指摘した。(中国新聞2014年3月10日)
- IPPNW(核戦争防止国際医師会議)のアラン・ロボック氏は、広島型原爆が100個使われた場合、粉じんが太陽光を遮り、米や麦の生産が40%減ると試算。気候変動が時間をかけて世界中に広がる様子を図を使って説明した。(朝日新聞2014年2月27日)
- なお、日本政府代表は「現実的で実際的な努力を強める」と述べるにとどまった。(赤旗2014年2月16日)



◆ 被爆地・広島で、NPT I 外相会議 開催

- 2014年4月11日~12日、被爆地・広島で、NPT I (第8回軍縮・不拡散イニシアチブ)の外相会議が開かれ、12か国の外相が集まった(日本、オーストラリア、ドイツ、ポーランド、オランダ、カナダ、メキシコ、チリ、トルコ、UAE、ナイジェリア、フィリピンのほか、ゲスト国が参加)。日本国内でのNPT I 外相会議は初開催であった。
- 会議では、核兵器を持たない12か国(うち7か国が「核の傘」国)でつくるNPT Iとして初めて、宣言で「核兵器の非人道性」に言及し、国境と世代を超えて認識を広げる重要性を指摘した。

- ・ 広島宣言のポイントは次のとおり。

①「核兵器なき世界」の実現へ決意を表明、②中国などを念頭に、多国間の核軍縮交渉の必要性を提唱、③核保有国を含む各国指導者に被爆地訪問を要請、④中国などを念頭に、国際社会の意図に反する核兵器増強を深く懸念、⑤核戦力の透明性は非常に重要な論点で、透明性がなければ核軍縮を検証できないと指摘、⑥北朝鮮に全ての核活動の即時停止を要求（中国新聞 2014 年 4 月 13 日）。広島宣言全文は外務省ホームページを参照→

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000035198.pdf>

- ・ これに対し、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）は、NPT I 広島外相会議が核兵器を非合法化し撤廃する新しい法的文書を指示することを明確に表明しなかったこと、そして何ら有意義な新しい誓約を行わなかったことへの失望を表明した。声明全文は核兵器廃絶日本 NGO 連絡会ホームページを参照→



http://nuclearabolitionjpn.files.wordpress.com/2014/04/npdi_outcome_statement_jp_fnl.pdf

◆ マーシャル諸島共和国が核保有国を国際司法裁判所に提訴

- ・ 2014 年 4 月 24 日、マーシャル諸島共和国は、核兵器保有 9 か国（NPT 加盟国・米ロ中英仏＋非加盟国・インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮）の核兵器保有が NPT や国際慣習法に違反するとして、国際司法裁判所（ICJ、オランダ・ハーグ）に提訴した。
- ・ NPT 加盟国については、核軍縮の早期停止などを定める NPT 第 6 条に違反すると指摘。非加盟の 4 カ国については、核軍縮は普遍的な義務であり、国際的な義務に違反するとして、判決から 1 年以内に必要な措置を講じることを命じるよう、ICJ に求めている。
- ・ 米国の信託統治下にあったマーシャル諸島では、1946～58 年に計 67 回の核実験が実施され、現在も多くの住民が後遺症とみられる症状で苦しんでいる。ICJ では相手国の同意がなければ、訴訟手続きは開始されないが、英国、インド、パキスタンは ICJ の強制管轄権を受諾しているため、裁判が開始される可能性がある。（朝日新聞 2014 年 4 月 27 日）

◆ NPT 第 3 回準備委員会が国連本部で開催

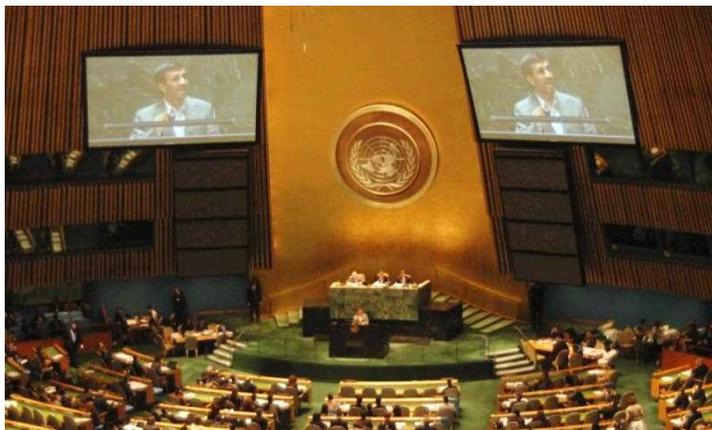


- ・ 2014 年 4 月 28 日より 5 月 9 日まで、ニューヨークの国連本部において 2015 年核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議第 3 回準備委員会が開催された。議長は、ペルーのロマン・モレイ駐ポルトガル大使が務め、日本からは岸外務副大臣らが出席した。

- ・ 第 1 回は 2012 年にウィーンで、第 2 回は 2013 年ジュネーブで開かれた 2015 年 NPT 準備委員会。今回の第 3 回準備委員会が前 2 回と異なるのは、2015 年再検討会議のための最後の準備委員会であり、準備委員会から再検討会議に対して議事内容や運営に関する報告書と勧告を提出する任務を担っている点である。

しかし、今回の準備委員会では、勧告案について全会一致による合意が得られず採択を断念した。そして、勧告ではなく、議長名による「作業文書」の扱いとなり来年に見送られた。また、第1回・第2回準備委員会において行われた核兵器の非人道性に関する共同宣言は、今回の準備委員会では実施されなかった。

- ・ 勧告案採択が見送られたことについては、会議最終日に、各国代表から無念さが口々に出されたものの、議長の努力に賛辞と来年の再検討会議に向けた決意と期待が述べられるなど比較的穏やかなトーンの発言が続いた。そのようななか、キューバは厳しい口調で核兵器国批判を展開し、2015年の成果が2010年と同じであってはならないと述べた（RECNA NPT2014年日報）。
- ・ オーストリアが、自国のステートメントの中で核兵器の非人道性に関する第3回国際会議を12月8・9日にウィーンにて開催する旨表明した。
- ・ なお、準備委員会直前に行われたマーシャル諸島による国際司法裁判所(ICJ)提訴については、初日の一般討論演説においてデ・ブラム同国外相が本件提訴を行った旨を改めて発表し、またその直後にサイドイベントを開催して、注目を集めた（外務省ホームページ）。



(2010年NPT再検討会議の様子)

来年はいよいよNPT再検討会議の年！

～石川反核医師の会からも代表派遣を～

5年に一度、ニューヨークの国連本部で開催されるNPT(核拡散防止条約)再検討会議。前回の2010年NPT再検討会議の国際要請行動には石川反核医師の会から4人が参加し、その直後にICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の呼びかけにより全世界で行われたNuclear Abolition Dayの金沢開催に大きな力となっていました。以後、石川反核医師の会では毎年Nuclear Abolition Dayを開催し、市民とともに被爆の実相を学びながら、日本国政府に対し、核兵器廃絶のアピールを行っています(今年の企画は本会報1～2頁参照)。

次回のNPT再検討会議がいよいよ来年に近づいてきました。開催日は2014年4月27日から5月22日、前回同様、ニューヨークの国連本部で開催されます。2015年NPT再検討会議の国際要請行動には当会から



(2010年NPT再検討会議国際要請行動でニューヨークの中心街をパレードする人々)

も再度代表を派遣したいと考えています。国際要請行動では各地で集めた「核兵器全面禁止」アピール署名をNPT再検討会議の議長に手渡しし、核兵器廃絶に向けて確実に前進することを求める要請行動(現地での懇談やパレードに参加する)等が行われる予定です。この国際要請行動に、当会代表として参加してくださる方を募集しています。また、代表派遣募金へのご協力を呼びかけます。ご協力をお願いします。



会費納入と運動募金にご協力をお願いします



2012年度および2013年度会費の納入、さらには運動募金にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。皆様からいただいた会費および運動募金は今後の反核医師の会の活動資金として有効に活用させていただきます。2013年度の活動実績、決算報告、2014年度の活動計画案、予算案については別紙の総会議案書をご覧ください。

◆NPT再検討会議国連要請団に、反核医師の会から代表派遣を！

来年のNPT再検討会議には当会からも再度代表を派遣したいと考えています。当会代表として参加して下さる方を募集するとともに、派遣募金へのご協力を呼びかけます。

◆県内小中学校への『はだしのゲン』寄贈運動を継続！

また、当会では引き続き、石川県内の小中学校に『はだしのゲン』を寄贈する運動に取り組んでいます。2014年4月1日現在、6自治体58校に寄贈しました（寄贈先学校については同封の総会資料をご覧ください）。運動募金にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。また、今後も残り13自治体の小中学校への寄贈を予定しています。寄贈募金へのご協力を改めて呼びかけます。

「核のない21世紀を子どもたちへ」の実現のため、核兵器廃絶を求める世論と運動を一層広める活動の基盤となる財政を確保するため、会費の納入と活動募金にご協力をお願いします。

※ 同封した振込用紙には会員の先生ごとに未納分の会計年度を記載しています

■年会費 5,000円

会計年度 2013年度=2013年4月～2014年3月

2014年度=2014年4月～2015年3月

■振込方法 会報同封の「郵便払込票」をご利用ください。

■事務局 核戦争を防止する石川医師の会

〒920-0902 金沢市尾張町2-8-23 石川県保険医協会内

TEL 076-222-5373 / FAX 076-231-515

<行事案内>

- ◇ 6月1日(日)13:30～ 非核の政府を求める石川の会総会記念「非核・平和・沖縄のつどい やんばるの森 東村・高江のたたかい」@石川民医連会館3階会議室 参加費 500円
- ◇ 6月8日～24日 2014年原水爆禁止国民平和大行進(石川県内)
- ◇ 6月15日(日)13:30～ Nuclear Abolition Day @石川県女性センター(詳細は1・2面)
- ◇ 6月21日(土)13:30～ 元テレビディレクター・赤井朱美講演会、「原発を止めた人たちの記録」上映 @近江町交流プラザ4階 原発を考える石川女性の会主催
- ◇ 6月21日(土)16:00～ 武藤類子講演会「福島を忘れないで」@ワークパル七尾 九条の会七尾等主催
- ◇ 6月28日(土)15:00～ 映画「標的の村」三上智恵監督講演「沖縄の基地問題と映画製作苦労話」@石川県教育会館4階 映画上映実行委員会主催